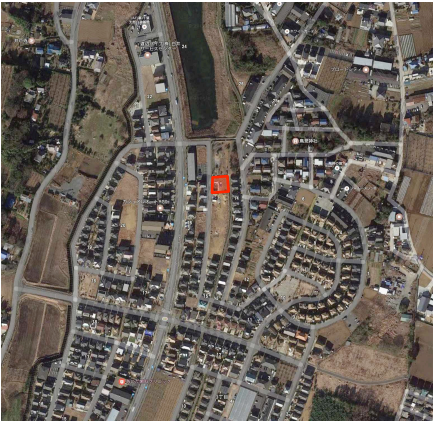


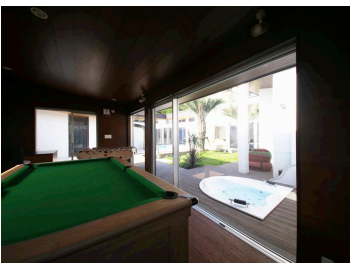
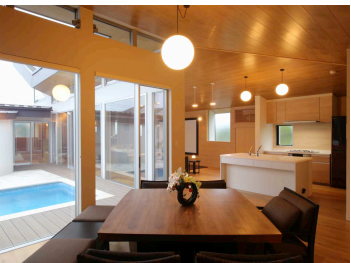
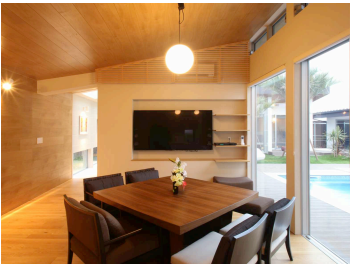
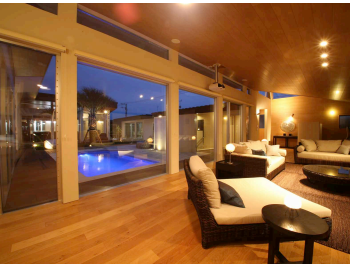
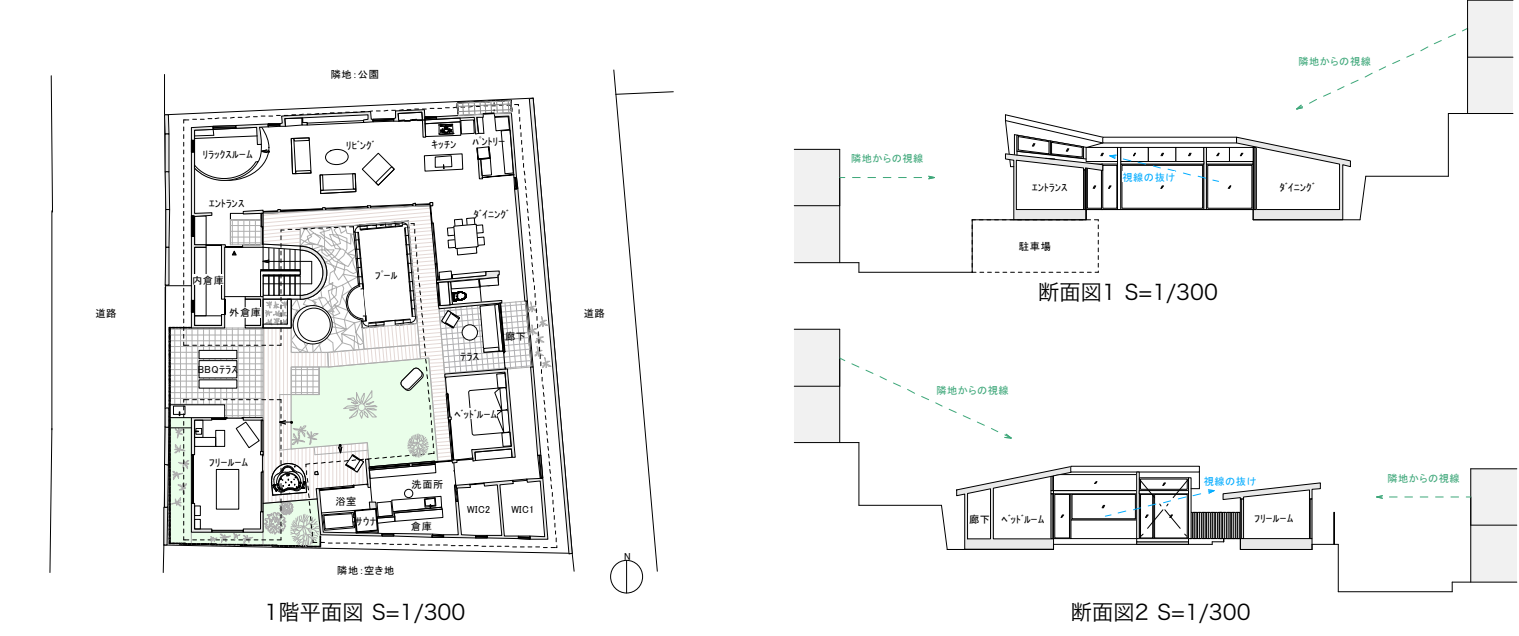


# 6 roofsコートハウス 〈白井-K〉 shiroi K

所在地：千葉県白井市  
用途：専用住宅  
構造：木造（一部鉄筋コンクリート造）  
敷地面積：480.68m<sup>2</sup>  
建築面積：246.11m<sup>2</sup>  
延床面積：294.24m<sup>2</sup>  
設計期間：2014.2～2014.10  
工事期間：2014.11～2016.6



□計画地について  
計画地はひな壇上に宅地造成された一角にある。  
南側は隣地、東側は敷地より一段高く隣家が立ち並び、北側には東西の道路をつないでいる、住民が通り抜けができる公園がある。西側は道路に接道しているため、アプローチはこの道路からとした。  
周囲を見渡すと、2階建ての同じような大きさの住宅が並んで建っていて、それらの住宅の敷地と比較すると、今回の敷地は倍以上の大きさであった。  
高低差による周囲の建物や道路からの視線を考慮しつつ、大きな敷地をどのように活かすかが計画する上でのポイントだった。



□6 roofs コートハウス  
夫婦と犬2匹のための家である。共働きのクライアントは、平日は一日の大半を職場で過ごす、休日は趣味や娯楽で家の外に出ることはほとんどなく、買い物もインターネットで済ますくらい生活が家の中で完結している。そのため、犬を遊ばせる庭、プール、ジャグジー、ホームシアター、バーなど様々な機能が詰め込まれた家となっている。

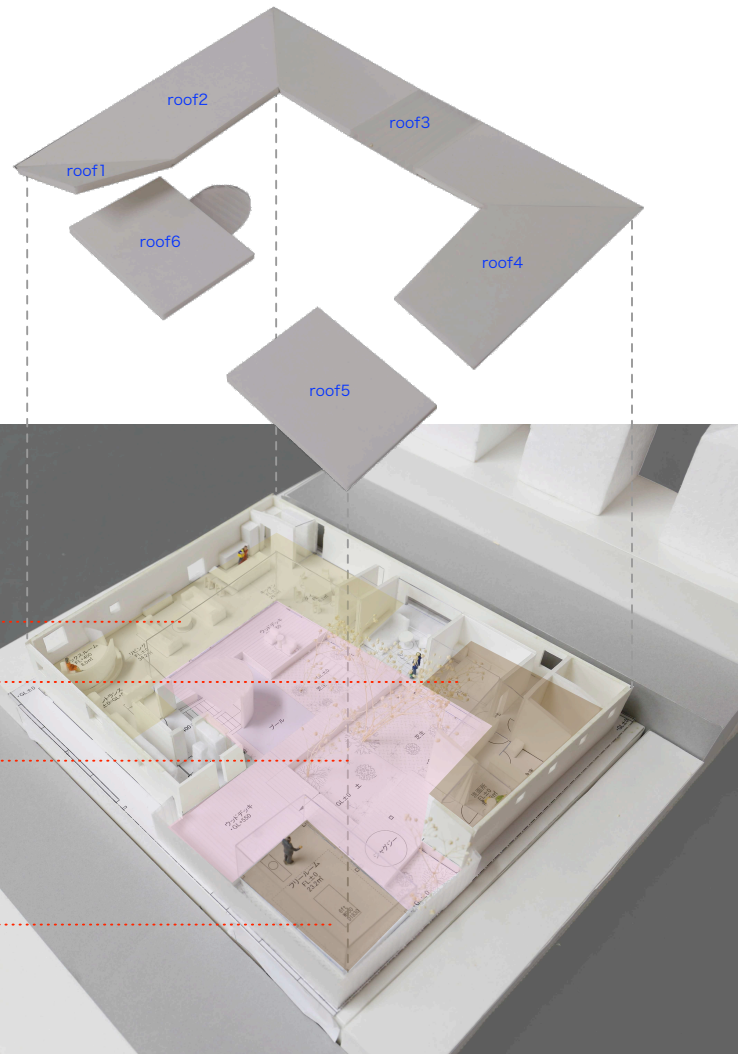
□ひな壇造成宅地に対する建ち方 ～平屋のコートハウス～  
必要諸室の面積を検討したところ敷地の大きさには余裕があったため、道路レベルから切り離れた平屋とし、すべての室が庭と面するように庭を囲む配置した。室と庭の関係が強調されるように中庭に開き、周囲からのプライバシーを考慮して外部に対しては閉じた空間とした。  
また、建物の外形を敷地形状に合わせることで、内部・外部におけるコートハウス特有の窮屈さをなくしている。

□各室に面する充実した中庭  
クライアントから要望された中庭の機能は、室の使われ方や周囲からの視線、日の入り方などの環境を考慮して配置した。  
植栽とガーデンファニチャーはリゾート風のものとし、照明は各室と中庭が一体的になるように計画した。



□周辺環境と中庭と屋根  
～6つに分割された屋根～  
平屋であることと、各室と中庭が隣接することにより、室内と中庭に明るさと広がりを獲得ができたが、敷地特有の高低差のある周囲からの視線に対しては、場所ごとに屋根の勾配を変えることで解決した。ひとつひとつの屋根は場所によって、室内に光を取り込んだり、中庭から空がより見えるような勾配にもなっている。結果として6つの屋根によって小さな集落のようにも見え、空間に変化を生んでいる。

- roof1：屋は光を取り込むため、夜は照明が外部に漏れるように屋根をめくり上げる
- roof2：室内に光を取り込むため中庭側の軒先を高くする
- roof3：高い位置にある隣家からの視線を考慮して中庭側の軒先を高くする
- roof4：将来の2階建ての隣家に対して中庭側の軒先を高くする
- roof5：中庭から空がよく見えるように中庭側の軒先を低くする
- roof6：中庭から空がよく見えるように中庭側の軒先を低くする



□内装仕上げの切り替え  
テラスを境にプライバシー性が異なる空間となっているため、リビング側のエリアは明るい仕上げ、寝室側のエリアは暗い仕上げとして、空間に仕上げて差異をつけて、ひとつの住宅に別の空間を感じられるようにした。

□充実した機能の中庭  
犬を遊ばせるための芝生スペース、ウッドデッキ、テラス、プール、ジャグジー、BBQテラスがあり、各部屋に面して庭があることで空間的連続性を生み出している。

□離れのフリールーム  
非日常性を生み出す、娯楽のための離れの空間となっている。バー、ビリヤード、スロット台、フーズボールがある。